

NEWS PAPER

TODAY'S RACE Rd.10final-11-12

SUZUKA CIRCUIT
11.22 SAT/23 SUN

INTERVIEW

良いところを
みせられない週末

Toshiki #39
OYU

39号車ドライバー
大湯 都史樹

RACE ARCHIVE

Rd.9-10 Qualify
FUJI SPEEDWAY

雨、車軸の如し

#7



RACE ARCHIVE

Rd.9 富士スピードウェイ **決勝** 10月11日(土) 公式予選の後も、10月11日(土)の富士スピードウェイは細かい粒の雨

続く雨のなか、不安のスタート

が降り続いており、午後3時から迎えた決勝レースは変わらずウェットコンディションとなった。スタート前のレコノサンスラップ時には粒が小さかった雨だが、決勝開始を前に雨粒が大きくなり、レースはセーフティカー先導のもとスタートが切られることになった。ただ、各車がウィーピングを繰り返しながらレース開始に向けて備えていくものの、巻き上がる水しぶきで視界が改善していかない。セーフティカーは6周目に入った時点で、コンディションが回復しないことから、レースは一時赤旗中断となってしまう。全車がメインストレートで停止することになった。その後、一時雨が弱くなったことから、午後3時48分にふたたびセーフティカーランが再開されることになったが、雨が再度降り出し、視界が改善しない。午後3時50分スタートと遅めだったこともあり、視界は悪くなる一方。次第に霧も出はじめることになってしまった。

激しい雨、赤旗で一終了に

セーフティカーが13周目に入った時点で2回目の赤旗が出され、レースは14周終了時点でそのまま再開せず終了となってしまう。レースはこの時点でハーフポイントながら成立しており、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台はグリッドどおり大湯が6位、阪口が9位と2台そろってポイントを獲得し第9戦を終えた。

Results	38	予選	9位	決勝	9位
	阪口 晴南				
	39	予選	6位	決勝	6位
	大湯 都史樹				



苦勞するウォームアップ

ここで大湯は1分22秒583までタイムを上げていったが、結果的に順位は8番手。一方の阪口はTGRコーナーでのブレーキロックもあり、1分23秒179というベストタイムで11番手という結果に。2台はともにQ2では思うようにタイムを伸ばすことができなかった。このQ2でのタイムの伸び悩みについて、阪口、大湯ともにQ2が7分間しかないことを理由として挙げた。ピット位置が出口に近いチームに比べ、タイヤのウォームアップをとる時間がどうしても少なくなってしまう。また、「今シーズン、タイヤの特性が変わりウォームアップに少し苦勞しているところがある」と大湯は語った。同様の症状は阪口も訴えており、「以前もこういうことがあったので、次戦以降に向けて考えていかなければ」とチーム全体としての課題であると強調した。



決勝 10月12日(日) 公式予選終了後、富士スピードウェイは曇り空のもととピットワーク、さらにKYOJO CUP第4戦ファイナルの決勝レースが行われていった。路面コンディションも完全なドライとなり、午後3時から予定されていた決勝レースを前に準備が進め

RACE ARCHIVE

Rd.10 予選 10月12日(日) 天候：雨 路面：ウェット

Q2好発進も、猛アタックへ

前日の第9戦同様、午前10時10分からスタートした公式予選Q1。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、まずはA組に阪口晴南が出走した。金曜の専有走行から好感触を得ていた阪口は、しっかりとタイヤをウォームアップさせアタックを決めると、1分23秒367を記録し、A組の4番手でQ2進出を果たした。続くB組には、大湯都史樹が出走した。前日、ドライコンディションでは「トップ3に続く位置につきたい」と語っていた大湯は、そのとおりに「トップを脅かすほどまでは詰め切れていませんでしたが、金曜の状態からアジャストしたものが良い方向に向かっていました」と1分22秒795を記録。B組の5番手でこちらもQ2進出を決めた。午後10時45分からスタートしたQ2は、阪口、大湯ともにコースオープンとともに速いペースでタイヤをウォームアップさせアタックラップに入っていた。



完全視界不良のサーキットは、まさかの決勝中止に

10分間のディレイはその後繰り返されていったが、午後3時35分、天候の回復が見込めないため、レースの開催中止が決定されてしまった。第9戦は雨による視界不良のためセーフティカーランのみでレースを戦うことができなかった。第10戦も決勝レースが走れないまさかの週末となった富士大会。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとっても、決勝ペースを確認することができず、またファンの皆さんの前でレースを戦えない悔しい週末となってしまった。

最終大会へ燕たちは、全力を尽くしてゆく

2025年の全日本スーパーフォーミュラ選手権も残すは鈴鹿サーキットで11月21～23日に行われる最終大会のみ。今季を良いかたちで終えるべく、全力を尽くしていく。

The INTERVIEW #6 残念

悔やんでも仕方ない



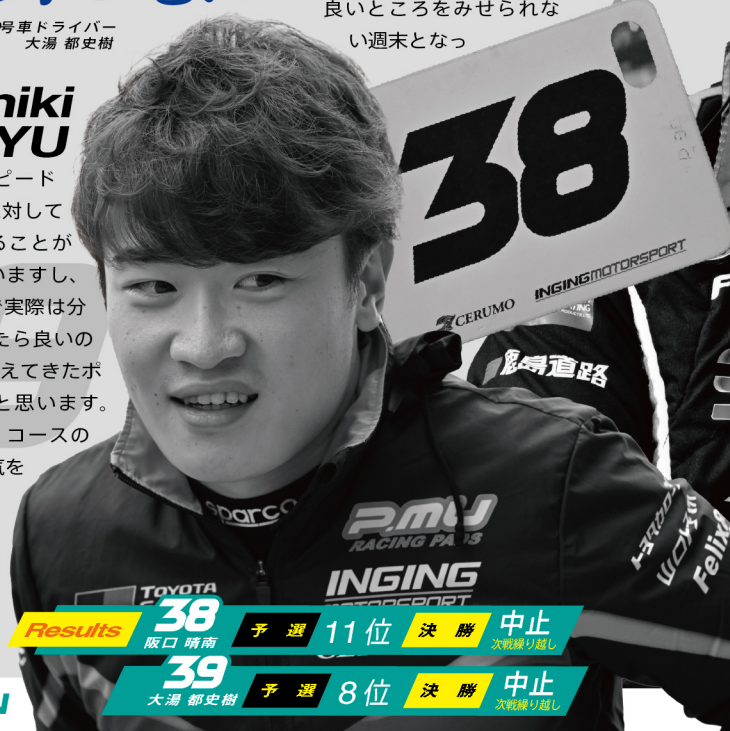
SAKAGUCHI Sena 38号車ドライバー 阪口 晴南

#38 金曜はみんながタイムを出しやすいコンディション、土曜はウェット、日曜は低温のドライ、と3日間異なるシチュエーションでしたが、比較的安定したパフォーマンスを出すことができたと思います。ただQ2では上位陣とタイヤの温まりの違いもあったので、悔しい部分でもあり、次に向けて考えられるポイントにもなったと思います。最終大会の鈴鹿ではQ2でも良いアタックを決められるよう頑張りたいな、と思える一日でした。

良いところをみせられない週末

#39 Toshiki OYU 僕たちとしては、富士スピードウェイというサーキットに対してそこそこの手ごたえを得ることができた週末になったと思いますし、レースを走っていないので実際は分からないものの、「こうしたら良いのではないか」という点が見えてきたポジティブな大会になったと思います。次は最終戦の鈴鹿ですが、コースのキャラクターも違うので気を引き締めていきたいですし、課題もしっかり克服したいですね。今シーズン表彰台に乗れていないので、それ以上を狙うことをテーマにしていきたいです。

曜の雨はスーパーフォーミュラというクルマの性質上走れない状況でしたし、今日は霧のため視界が厳しく、何も良いところをみせられない週末となった



Results	38	予選	11位	決勝	中止
	阪口 晴南				次戦繰り越し
	39	予選	8位	決勝	中止
	大湯 都史樹				次戦繰り越し

